

芸術科（生活書道）学習指導案

府立〇〇高等学校 〇〇 〇〇

- | | | | |
|---|---------|-----|---|
| 1 | 日 | 時 | 平成 25 年〇月〇日 (〇) 6 限 |
| 2 | 場 | 所 | 府立〇〇高等学校 書道教室 |
| 3 | 対 象 | 学 年 | 第 2 学年 芸術科生活書道選択生 30 名 (2 年 2・3・5 組選択者) |
| 4 | 単 元 | 名 | 「美しく文字を表現しよう」 (2 時間) |
| 5 | 教 科 | 書 | 使用せず |
| 6 | 単 元 目 標 | | |
- (1) 文字を美しく表現することに関心をもって、表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
 - (2) 文字の美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
 - (3) 文字を美しく表現するための方法を理解し、表現の技能を身に付け表している。
(創造的な書表現の技能)
 - (4) 日常生活における美しい文字の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、文字の美しさを創造的に味わう。
(鑑賞の能力)

7 教材 観

文字を美しく書きたい。そう思う気持ちは強くても、どのように書けば美しく見えるのかを知らない生徒は多い。文字を美しく表現する方法は、書の歴史の中で築かれ、古典に基づいている。そのためには、1文字1文字についての理解も必要だが、文字を美しく表現する手がかりとなる事柄をいくつかのパターンに分類して理解させることが可能である。このことについては1学期から継続して実施しているが、その時はできていても、使ったり意識し続けたりしないとなかなか定着しない。そこで1年間の終わりも近づくこの時期に、文字を美しく表現する方法について、あらためて考え、理解し表現することで定着を図りたいと考えこの教材を設定した。また、文字の美しさに対する見方を養うことで、生徒の鑑賞眼も高まり、今後のさらなる書写能力の向上、文字に対する感覚も高められ、書を生活の中で活かし、日常生活における書の美しさを感じ取る力も高められると考える。

8 生徒 觀

「略」

9 指導観

文字の美しい見せ方に興味を持ち、主体的に取り組み、表現することに喜びを感じる気持ちを育てたい。またその美しさを築きあげてきた書の伝統と文化についても触れ、興味を持たせたい。そして、表現技法をしっかりと身に付け、学習で取り上げなかった字についても考え表現できるよう、今後の生活において活かし自分で学び続ける意欲につなげたい。また、自分で思考・判断・表現する時間を取った後に、グループによる話し合い活動および全体へ発表する活動を取り入れた。自分の考えを言葉で伝える大切さ、聞く大切さ、伝え合うことで互いに深め合える良さを感じさせたい。

10 単元の評価規準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単元の評価規準	〔表現〕 文字を美しく表現することに関心をもって、表現の創造的活動に主体的に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕 文字の美しい表現に関心をもち、その美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	美しい文字を感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現をするために、美しい文字の表現の基礎的な能力を活かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活における美しい文字の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、文字の美しさを創造的に味わう。
学習活動における具体的評価規準	〔表現・関①〕 美しい文字とその表現方法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。 〔鑑賞・関①〕 日常生活の美しい文字と書の伝統と文化について関心をもち、文字の美しさを感じ取ろうとしている。	〔構①〕 美しい文字とその技法を学び、文字を美しく見せるための表現を工夫している。	〔技①〕 文字を美しく見せる方法について理解し、創造的な表現の技能を身に付け表している。	〔鑑①〕 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、文字の美しさを感じ取っている。

11 指導と評価の計画（全2時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			書への 関心・ 意欲・ 態度	書表現の 構想と工 夫	創造的な 書表現の 技能	鑑賞の能 力	
1	文字を美しく見せる方法について理解し、表現する。 自らの意図に基づいて構想し、技能を身に付け表現する。	文字の美しい見せ方（漢字1字と多字の整え方）について考えていくことを知る。 提示された要素について美しく表現するにはどうすればよいか個人で考える。 グループで意見交流を行い、まとめたことを全体に発表する。 ①画の長短 ②そり・まがり・はらい ③扁と旁・組立て方 ④多字（漢字のみ） 美しく表現するための方法について理解し練習して確認する。	関①	構①			文字の美しい見せ方に関心を示し、意欲的に取り組んでいる。 （観察） 自らの意図に基づいて構想し、工夫して表現している。 （プリント） 美しく見せる方法を理解し表現できている。 （作品）

2	文字を美しく見せる方法について理解し、表現する。	文字の美しい見せ方（仮名と漢字仮名交じり文の整え方）について考えていくことを知る。	関①	構①	技①	鑑①	文字の美しい見せ方に関心を示し、意欲的に取り組んでいる。 (観察)
	自らの意図に基づいて構想し、技能を身に付け表現する。	提示された要素について美しく表現するにはどうすればよいか個人で考える。 グループで意見交流を行い、まとめたことを全体に発表する。 ⑤平仮名（むすび） ⑥平仮名（外形） ⑦多字（字の大小） ⑧多字（中心） 美しく表現するための方法について理解し練習して確認する。	関②				自らの意図に基づいて構想し、工夫して表現している。 (プリント) 美しく見せる方法を理解し表現している。 (作品)
	日常生活における美しい文字の効用や書の伝統と文化について理解し、文字の美しさを創造的に味わう。	日常生活における美しい文字と書の伝統と文化について知る。					

12 本時の学習（1時）

○本時の目標

- ・文字を美しく表現するための方法について理解し、表現技能を身に付ける。
- ・文字を美しく表現するにはどうすればよいか、自ら考え構想し、工夫して表現する。
- ・話し合いや発表を通して、自分の考えを言葉で伝え、意見交換を行うことによって互いに深め合う。

○本時の評価規準

関① 構① 技① 鑑①

○本時で扱う教材

プリント 例示文字（生徒作品） 例示文字（見本）

○学習指導の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 (5分)	・文字を美しく表現することについて学習してきたことを振り返る。 ・本時の学習内容（文字を美しく表現するための方法）を知る。	・出席確認 ・これまでの学習を振り返らせたいので本時の内容を説明する。 ・美しく整った文字、そうでないものを提示比較し、関心を持たせる。	観察

展開 (35分)	・本時の学習目標、学習の進め方について説明を聞き理解する。 ・提示された要素について美しく表現するにはどうすればよい か個人で考える。 (①「画の長短」) ・グループで意見交流を行い、まとめたことを全体に発表する。 ・画の長短が、文字を美しく表現する上で重要であることを確認する。 以後、 ②「そり・まがり・はらい」 ③「扁と旁・組立て方」 ④「2字以上の漢字(多字)」 についても順に考える。	・文字を美しく見せるためにはどうすればよいかを自ら考え工夫して表現すること、文字を美しく表現するための方法を理解し身に付けることを確認させる。 ・個人で考えたのち、グループで話し合い全体に発表することを伝える。自分の考えを伝える大切さと聞き方についても伝える。 ・画の長短のない例示文字を示し、長短について課題がもてるように意識を向けさせる。 ・机間指導をし、まだ書けていない生徒には、まず自分で考えて表現してみることの大切さを伝える。 ・美しく表現するためには何が大切なのか、具体的にどこをどうすればよいのか、の2点について話し合わせる。 ・グループの話し合いでは、全員の意見を聞いてからまとめることを確認する。 ・発表する人、聞く人の方を向く。 ・画の長短のない例示文字、ある例示文字を黒板に貼り、比較して確認させる。	・美しい文字について関心を示し、意欲的に取り組んでいる。 観察 ・どうすればよいかを自分で考え工夫して表現している。 観察 プリント ・自分の考えを伝え、関心をもって意見を聞いている。 観察
まとめ (10分)	・本時に学習した①～④について練習し確認する。 ・課題を提出する。	・①～④などが相互に関連し合って美しく表現できることを伝える。 ・ただ練習するのではなく、学習したことを意識して練習し、普段の生活に活かすことを伝える。 ・作品を提出させる。 ・次時予告をする。	・文字を美しく見せる方法について理解し、表現の技能を身に付け表している。 作品